G-TEKT CORPORATION

CSR報告書2016

株式会社ジーテクト

G-TEKT CORPORATION

技術を世界に、 未来に。

未来の地球のために、
ジーテクトは歩みを進めます。

社是

人間性尊重

技術革新

堅実経営

行動指針

- 愛情と相互信頼をモットーに自己啓発に努めよう
- 先進技術を追求し良質廉価な製品を提供しよう
- 自主性をもち英知と機敏さで社会に貢献しよう

経営ビジョン

先進技術と良質廉価技術の融合で低炭素社会に
貢献し、世界中のお客様に満足される企業

CONTENTS

イントロダクション

- 社是・行動指針・経営ビジョン 01
- 目次・編集方針 02
- トップメッセージ 03

会社情報

- 会社概要・主要部品・グローバルネットワーク 05
- CSR基本方針 06

特集

- マテリアリティの特定 07
- 環境に配慮した製品づくり 09

コーポレートガバナンス

- コーポレートガバナンス基本方針・社員コメント
リスクマネジメント・株主・投資家とのコミュニケーション 11

情報管理

- 情報セキュリティの目的・基本方針・教育 13

安全衛生

- 安全衛生方針・避難訓練など 14

品質

- 品質方針・品質保証体制など 15
- お客様満足向上の方針・購買・CSR調達方針・社員コメント 16

人権・労働

- 人材育成基本方針・人材育成制度・ダイバーシティなど 17

環境

- 環境理念・環境方針・社員コメント 18
- 環境マネジメント体制 19
- 環境ロードマップ・マテリアルフロー 20
- データ 21
- 環境改善取り組み 22
- 生物多様性の取り組み 23

社会貢献

- 社会や地域への貢献活動・海外での取り組みなど 25

第三者意見

- 第三者意見 26

編集方針

発行目的

ジーテクトは、持続可能な社会の実現に向け「ジーテクトフィロソフィー」を基盤にしたCSR活動についてステークホルダーの皆さまにお伝えするため、CSR報告書を発行いたします。こうした非財務情報開示により当社のCSR活動について理解を深めていただくことを目的としています。

当社のCSR報告書は、事業活動の中で重要となる独自のCSRテーマを定め、その取り組み報告をまとめています。ステークホルダーの皆さまとの重要なコミュニケーションツールのひとつに位置づけ、今後もさらなる充実に努めてまいります。

参考にしたガイドライン

• ISO26000　• GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」　• 国連グローバル・コンパクト
• 環境省「環境報告ガイドライン」

対象期間

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)
ただし、一部で過去の取り組みや直近の活動も記載しています。

対象範囲

日本国内の活動を中心に、海外子会社の取り組みを含んで報告しています。

公開時期

2016年6月(次回予定2017年6月)

お問い合わせ先

株式会社ジーテクト　法務部
〒330-0854
埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目11番地20
大宮JPビルディング18階
TEL 048-646-3400(代)

持続可能な社会の実現をめざして

ジーテクトでは、2011年4月に新会社として誕生して以来、経営ビジョンで「先進技術と良質廉価技術の融合で低炭素社会に貢献し、世界中のお客様に満足される企業」を掲げ、事業とCSR活動の連動を強める事により、財務的企業価値と社会的企業価値の向上に努め、お客様・社会・株主様、そして社員といったすべてのステークホルダーの期待に応えるべく活動をしてまいりました。

ジーテクトを取り巻く自動車産業界では、近年更なるグローバルでの競争激化に加え、未来のモビリティシステムに向けて自動運転車や交通ネットワーク情報システムの開発、またEV車や燃料電池車に代表されるパワートレインの電動化など、環境適応車の開発が急がれております。

このような環境の下、3つの分野のイノベーションを実行してまいります。

この3つの分野とは、未来のモビリティシステムのニーズ変化を先取りし、新たな価値を創造する「技術イノベーション」、より良い物を世界中のみなさまに届けるための「販売イノベーション」、そして何よりこれらを支える人材の育成を伴った「人事イノベーション」でありま

2020年Vision G4-20（ジーフォー・トゥエンティ）

す。ジーテクトはこれらのイノベーションを中長期的に推進する事により持続的かつ強靭な成長を遂げてまいります。

特に人事分野では、第6期より従来のCSR活動に加えて「共通の広場で楽しく忙しく」を合言葉に、ジーテクトがそこに集う人材と共に成長できる人事システムとすべく（1）「次の時代に価値を生み出す人材の育成」（2）「全員が共に成長し活躍できる組織風土づくり」をめざし、これまでの「人事制度」と「人材育成制度」を新たなものにしてまいります。この制度改革により従業員が能力を如何なく発揮できる環境を整備し、幸せを実感できるような、人を中心とした「ジーテクトの持続的成長」を支える人材育成をスタートさせております。

ジーテクトは引き続き、ステークホルダーの皆様との対話・共創を基盤としたCSR活動を通じ、50年先、100年先も存在を期待される企業として、持続可能な社会の実現に貢献してまいりたいと存じますので、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2016年4月

代表取締役社長　高尾 直宏

corporate data

会社情報

会社概要

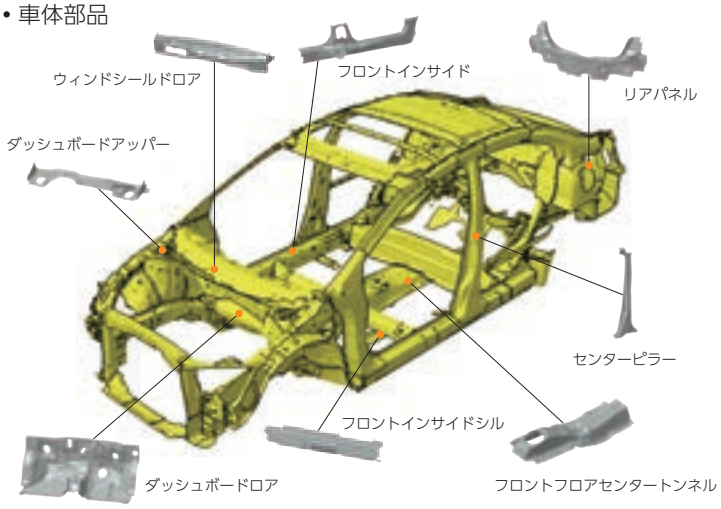
社　　名	株式会社ジーテクト
創　　業	1947年4月1日
設　　立	1953年11月4日
資 本 金	4,656,227,715円
代 表 者	代表取締役社長 社長執行役員 高尾直宏
事業内容	自動車車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売
従業員数	連結 7,684人（国内1,189人） （2016年3月31日現在）

売上高（億円）	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
	1,815	1,938	2,207

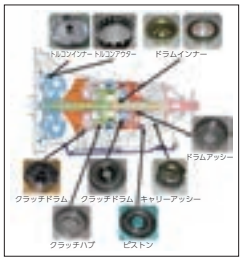
経常利益（億円）	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
	139	90	114

主要部品

• 車体部品



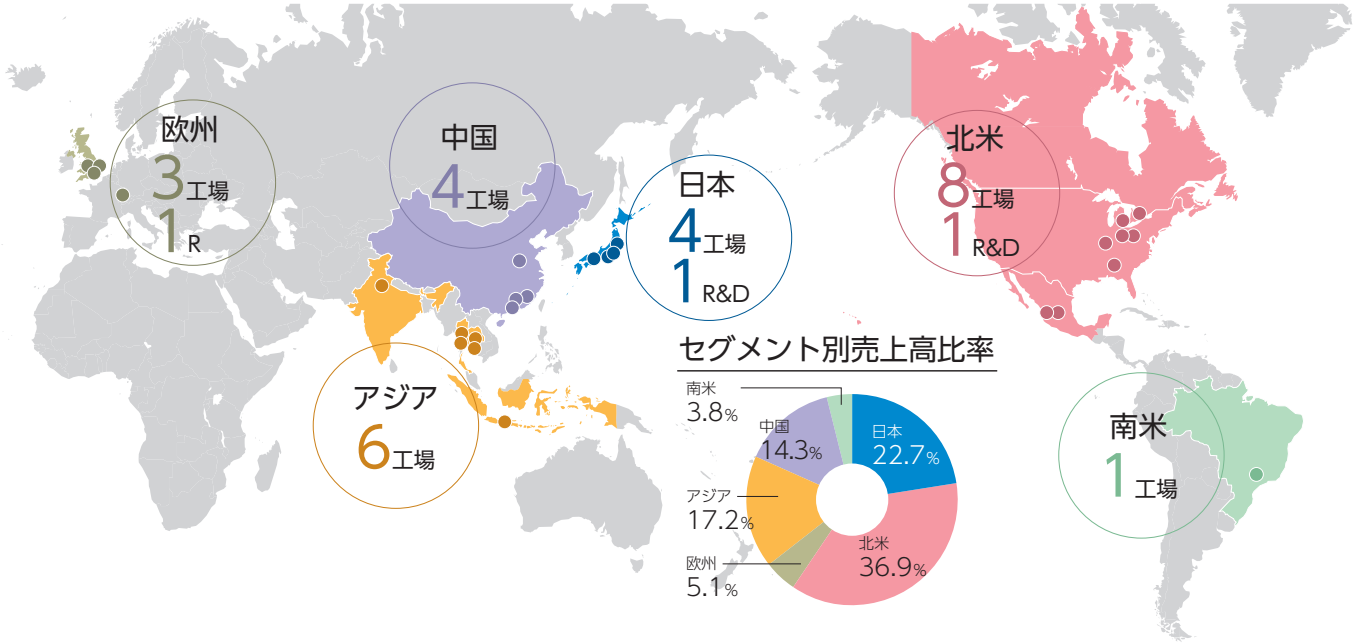
• トランスミッション部品



◀ A/T部品
（自動変速機）

◀ CVT部品
（無段変速機）

グローバルネットワーク



ジーテクトのCSR

CSR基本方針

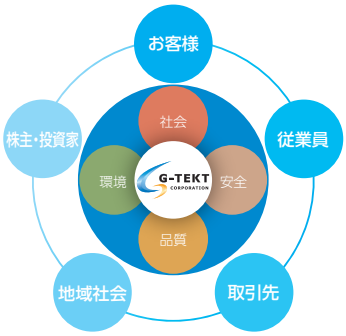
当社は「道義的」「社会的」に責任が深まるなか、CSR活動を通じ社会と共に持続的成長をし、存在を期待される企業になる。

社会からの期待により果たすジーテクトの責任

4つの基本領域	7つのCSRテーマに細分化	テーマ	CSR
企業統治の充実により公正で透明な事業活動をする	→	コーポレートガバナンス	事業活動の透明性を高め積極的な対応と開示を心がけます。
		情報管理	機密管理体制を強化し信頼される企業風土を築きます。
安全で快適な環境により良質製品を提供する	→	安全衛生	安全で快適な職場環境を構築いたします。
		品質	お客様のニーズを満足する信頼される製品を継続的に提供します。
人材を尊重し人権配慮と労働環境の改善をする	→	人権・労働	従業員の個性を尊重し、公平・公正で働きがいのある職場づくりに努めます。
地球環境の保全と地域社会への貢献をする	→	環境	地球環境の保全を最優先とし、低炭素社会の実現を目指します。
		社会貢献	地域社会との共生で次世代へ引き継げる社会貢献を継続します。

ステークホルダーとのかかわり

当社のステークホルダーであるお客様、従業員、取引先、地域社会、株主・投資家の皆様に存在を永続的に期待され、信頼される企業であるために、当社社員が共有する行動指針として「わたしたちの行動指針」を制定し、社員一人ひとりが社会の一員として、自動車産業の一翼を担う企業の一員として、自覚を持って行動することを心がけています。



ステークホルダーに対する基本姿勢

当社製品の納品先であるお客様に対して、安心で安全な製品をお届けすることで、信頼されるパートナーであり続けます。

お客様
当社製品の納入先であるお客様に対して、欲しい物を欲しい時に欲しいだけお届けすることで信頼されるパートナーであり続けます。

従業員
人間性尊重の理念のもと、従業員一人ひとりが仕事にやりがいを感じ、いかなるハラスメントも許さない、安心、安全で生き生きとした職場づくりを目指します。

取引先
公正で合理的な方法で取引を行い、当社の生産活動のために欠かすことのできないパートナーとして、互いに尊重し合いながら協力関係を構築します。

地域社会
社会貢献活動への参加等を通じて積極的に地域住民との融合と調和を図り、相互理解に基づく良好な関係づくりを目指します。

株主・投資家
迅速・公平な情報開示をモットーとして、株主・投資家と積極的に対話する機会を設け、より一層の企業価値の向上と適正な株価の形成に努めます。

マテリアリティの特定

ジーテクトの事業活動が社会に及ぼす影響を把握し、影響の可能性や影響そのものを管理しながら事業活動を行うべきと考え、2016年時点での重要な側面を特定しました。特定したマテリアリティに対してはマネジメント方法を整理・強化し、次の新中期計画の策定プロセスに統合していく事をめざします。

マテリアリティの特定

マテリアリティ特定にあたり

近年様々なステークホルダーからの財務・非財務の情報開示に対する要望が高まっております。ジーテクトの事業活動が社会に及ぼす影響を把握し、影響の可能性や影響そのものを管理しながら事業活動を行うべきだと考えております。

ジーテクトグループの事業が持つ特性や展開地域などを考慮し、ステークホルダーの皆様の意見を伺いながら2016年度時点での重要な側面を特定しました。特定したマテリアリティに対してはマネジメント方法を整理・強化し、次の新中期計画の策定プロセスに統合していく事を目指します。

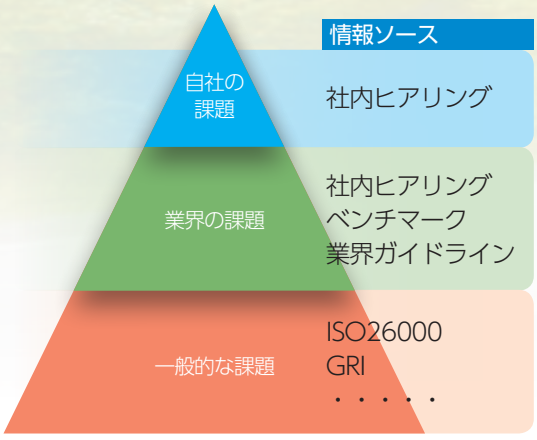
STEP 1 社会課題の洗い出し

CSR課題を幅広く把握し、
ステークホルダー視点・社会的役割を
基に課題群を整理

ジーテクトがすでに取り組みを行っている課題を基本に、一般的な課題をISO26000、GRI・国連グローバルコンパクトなど、また業界の課題を社内ヒアリング・他社ベンチマーク・業界ガイドライン、自社の課題をステークホルダーからの情報収集などを活用し、それぞれから出てくる社会課題と照合いたしました。

その結果、すでに対応している課題に加え、これらの外部評価にあげられているものを追加し、社会課題リストを作成いたしました。

■ マテリアリティ特定にあたり



STEP 2 自社事業戦略からの課題

経営理念や事業戦略などから、
CSRに関わる要素の抜き出し

ジーテクトグループの経営理念・経営ビジョン・経営方針などからCSR要素を抜き出し、社会課題リストへ追加いたしました。

経営理念

社是	行動方針
人間性尊重	愛情と相互信頼をモットーに自己啓発に努めよう
技術革新	先進技術を追求し良質廉価な製品を提供しよう
堅実経営	自主性をもち英知と機敏さで社会に貢献しよう

経営ビジョン

先進技術と良質廉価技術の融合で
低炭素社会に貢献し、
世界中のお客様に満足される企業

CSRマテリアリティ特定のプロセス

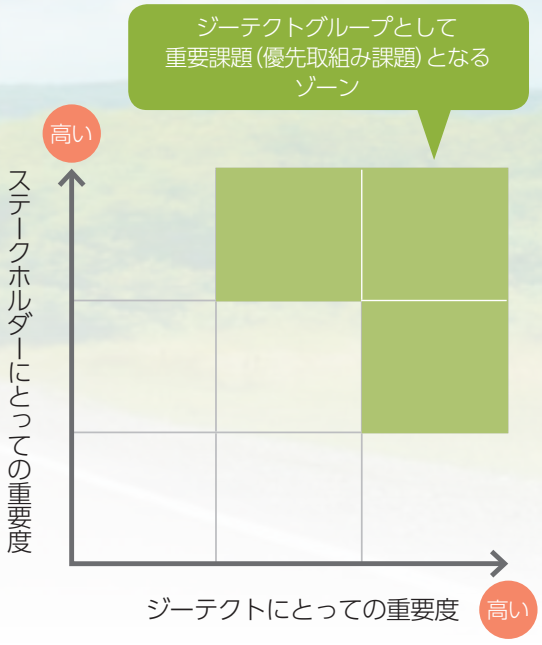
STEP 1 社会課題の洗い出し → STEP 2 自社事業戦略からの課題 → STEP 3 重要度の検討 → STEP 4 マテリアリティ妥当性の確認 → STEP 5 マテリアリティの特定

レビュー

STEP 3 重要度の検討

ステークホルダーからの期待、
自社の経営戦略などから抽出した
課題の重要度検討

ジーテクトグループにおける重要度とステークホルダーにとっての重要度の2軸とする平面にSTEP2で作成した社会課題リストにある課題群をマッピングし、両方の視点で重要度が高いと言える課題を重要課題と特定する為の評価を行いました。



STEP 4 マテリアリティ妥当性の確認

決定したマテリアリティについての
最終確認

ジーテクトグループのCSR課題に関するマテリアリティ特定プロセスと抽出課題の社外有識者による評価と経営層による議論を行いました。

STEP 5 マテリアリティの特定

特定したマテリアリティ

- コーポレートガバナンスの強化
- 環境配慮製品・技術の開発
- 人材育成
- 環境マネジメント

環境に配慮した製品づくり

環境に配慮した製品づくり

我々を取り巻く自動車産業界は、未来のモビリティシステムを実現する為の自動運転車や交通ネットワーク情報システムの開発、EV車(電気自動車)やFCV車(燃料電池車)に代表されるパワートレインの電動化など、環境適応車の開発が急がれております。

その中で、ジーテクトは最軽量・高性能・低コストボディーの提供により、環境にやさしい製品を競争力のある価格で幅広く活用頂けるように、日々努力をしております。

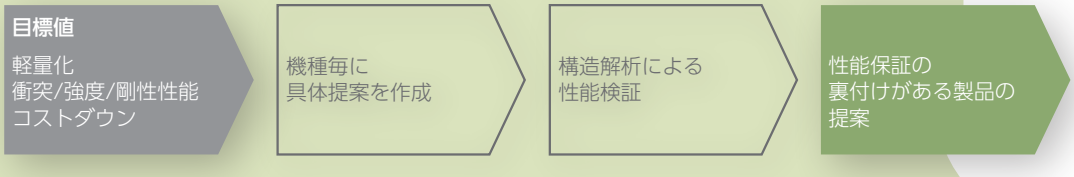
構造面からのアプローチ(車1台解析技術)

軽量高剛性ボディー提案

自動車ボディーに求められるものは、ボディーそのものの軽量化によるCO_2削減はもとより、環境にやさしいEV車やFCV車は重い電池を搭載する為、さらなる軽量化が求められております。

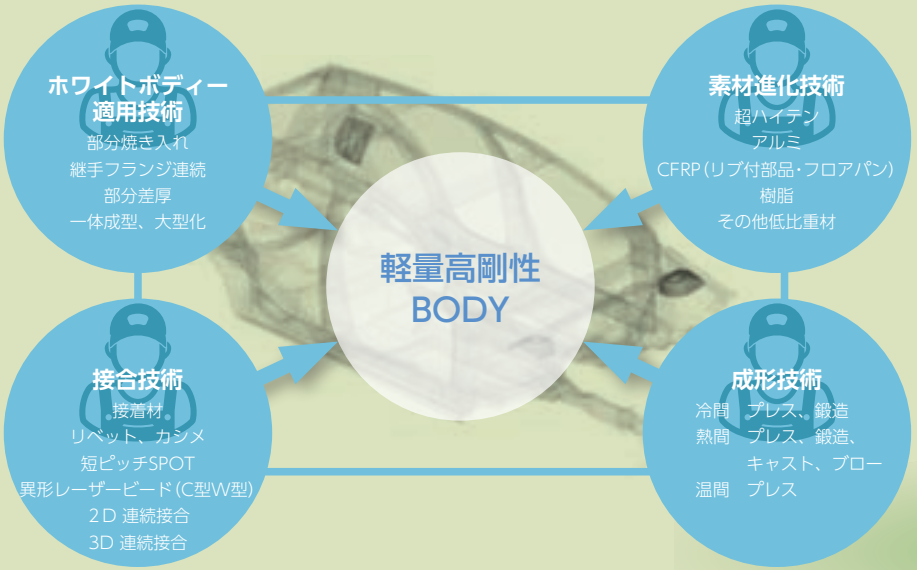
ジーテクトでは、要素技術の手の内化や競合他社の製品調査より、軽量ボディーノウハウを構築し、フルカーシミュレーションによる性能保証の裏付けがある最適ボディを提案しております。

■ 最軽量・高性能・低コストボディー　提案フロー



要素技術の手の内化

ジーテクトは軽量高剛性ボディーの実現の為に、「ホワイトボディー適用技術」・「素材進化技術」・「接合技術」・「成形技術」の各分野に取り組みホワイトボディーの要素技術の手の内化を進めております。



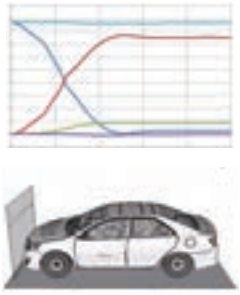
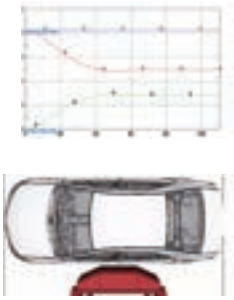
フルカーシミュレーションによる性能保証

競合他社の製品調査

最新注目車種を徹底調査し、競合他社との比較・業界や新製品動向の見極を行い、ジーテクトの技術力向上と軽量ボディーノウハウの構築をはかっております。

フルカーシミュレーションによる性能保証

要素技術の手の内化や競合他社の製品調査により構築したノウハウを反映したモデルで、衝突全方位と剛性の解析結果を基に性能評価・最適提案を行っております。

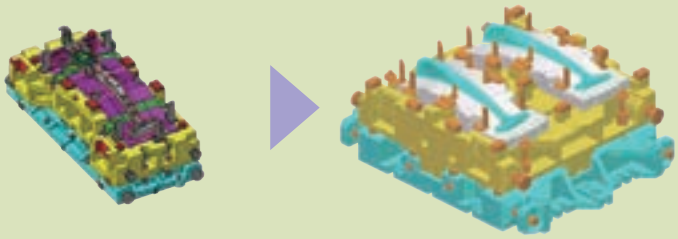
前突	側突	後突	ねじり剛性
エネルギー収支	エネルギー収支	エネルギー収支	衝突用モデル → 変換 → 剛性解析モデル
			ねじり剛性解析

金型設備・製品材料の省資源化

金型設備・製品材料の省資源化

部品の多数個取りや工程削減による金型材料の削減・加工方法の変更による歩留り改善(スクラップ削減)による省資源化で環境にやさしい生産現場の実現に向けた継続的な活動を行っております。

金型設備の材料削減



多数個取り事例

多数個取りによる
金型材料削減

製品材料の材料削減

ドロー成形パネル

フォーム成形パネル

歩留り改善事例

加工方法を変更し
材料15%削減

corporate governance

コーポレートガバナンス

事業活動の透明性を高めるため、積極的な対応と開示を心がけています。

コーポレートガバナンス基本方針

当社は、お客様をはじめ、従業員、株主・投資家、社会から「存在を期待される企業」となるために、社会的責任を有する企業として、経営の重要性を認識し、透明・迅速・公正、果断かつリスクを勘案した意思決定を確保する組織・仕組みを整備し、全てのステークホルダーとの信頼関係を構築していくことが、経営の最重要課題の一つとして認識しております。

より実効性の高いコーポレートガバナンスの実践と、継続的な改善の取り組みにより、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

コーポレートガバナンス・コード

「攻めのガバナンス」の実現を目指して策定されたコーポレートガバナンス・コードに対しましては、その趣旨を踏まえ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、当社の経営に最も効果的なガバナンス体制を構築するため、当社のコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方、枠組み、運営方針を示す「G-TEKTコーポレートガバナンス基本方針」を取締役会において決議し、コーポレートガバナンス報告書にて開示しております。

▶コーポレートガバナンス報告書はこちら

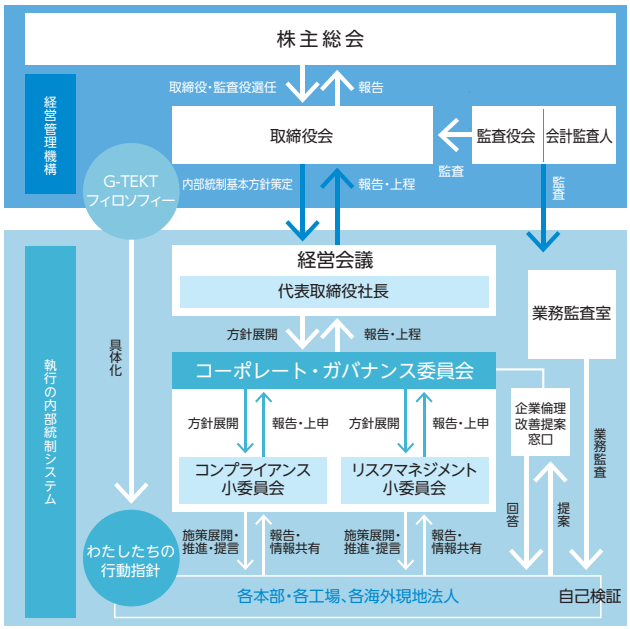
URL http://www.g-tekt.jp/company/pdf/governance_report.pdf

「コーポレート・ガバナンス報告書」

コーポレートガバナンス体制

内部統制システムを含むコーポレートガバナンス体制は次の図のようになります。

■ コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

遵法精神の高い企業であるため、全ての法律および社内規程等を遵守し、社会規範として常に誠実な行動をとるように心がけています。コンプライアンスをステークホルダーの期待に応えるという視点でとらえ、従業員一人ひとりが高い倫理観を持って行動するための指針として「わたしたちの行動指針」を作成し、従業員に周知徹底しています。コンプライアンスの浸透・定着のための推進活動をはじめ、不祥事の未然防止や早期対応、コンプライアンス徹底に向けた継続的改善を行い、一層の定着を図っていきます。

「わたしたちの行動指針」

リスクマネジメント

事業活動を健全に遂行していくため、経営を取り巻くさまざまなリスクを把握・分析し、適切なリスクコントロールに努めています。当社の事業運営上のリスクは多様化し、その管理の難易度は高くなっていますが、リスク状況の適切なモニタリングの確保やリスク管理に関する横断的な課題対応ならびに水平展開を目的としたリスクマネジメント小委員会をコーポレート・ガバナンス委員会の下に設置し、リスクマネジメント活動を推進しています。

直近では、地震などの大規模災害を想定し国内各工場ごとに、それぞれBCP（事業継続計画）を策定するなど、万が一の場合でも迅速な復旧が図れるよう準備しております。

株主・投資家とのコミュニケーション

株主様向け工場見学会の様子

株主・投資家への情報公開については、迅速・公平をモットーに日々の開示業務・IR活動を行っています。

また、株主・投資家の皆様に対して、ジーテクトという企業に対する理解を深めていただくためには、積極的にコミュニケーションをとることが重要であると考え、株主総会における株主懇談会や、機関投資家向け決算説明会・個別IR訪問のほか、個人投資家向け会社説明会・株主様向け工場見学会などを開催して、経営者自らが株主・投資家と対話する機会を設けています。

そのほか、当社ホームページのタイムリーな更新や、株主通信の発行などを通じて、株主・投資家の皆様にジーテクトの事業活動に対する理解を更に深めていただくと共に、株主アンケートの実施や株価情報などによって得られる当社の評価に目を向け、あるべき企業の姿を目指しています。

IRサイト

株主通信

従業員の VOICE

リスクマネジメント体制の更なる強化を目指して

リスクマネジメント小委員会事務局　法務部　宗田　知彦

当社では、リスクマネジメントの全社横断組織である『リスクマネジメント小委員会』を設置して、全社的な危機管理体制の構築を推進しています。同委員会では、企業の存続にかかわるような重大なリスクについても、対処すべき課題として取り組んでいます。昨年度は、国内各拠点のBCP（事業継続計画）を策定し、災害時の危機管理体制を見直すとともに、ジーテクトグループの進出国別のリスクマップの策定に取り組み、改めて当社をとりまく事業リスクの洗い出しを行いました。

今後も、更なる施策を実施して、築き上げてきた体制に磨きを掛け、より強固なリスクマネジメント体制の構築につなげていきます。

information management

情報管理

機密管理体制を強化し、信頼される企業風土を築きます。

情報セキュリティの目的

情報漏洩防止のための基本ルールとしてセキュリティポリシーを制定する事により全世界のジーテクト社員が、情報資産を守り抜く意識を高め、時代の変化に対応できる情報セキュリティ体制を構築しています。

情報セキュリティの基本方針

当社の情報資産を守る為に、下記内容を基本方針とする。

- 情報漏洩のリスクを理解して行動する。
- 全世界のジーテクト社員が、場所・利用技術に関係なく、同じセキュリティポリシーの下に情報管理・漏洩防止を行う。
- 情報漏洩事例などのリスク情報は全世界で共有し、且つセキュリティポリシーに反映し、ジーテクトでの漏洩防止、再発防止に役立てる。
- 新しい情報管理・処理に関係する仕組みを構築する際は、セキュリティポリシーの考え方を遵守する。
- 社会環境の変化に迅速に呼応し、先取りで対応を行っていく。
- セキュリティポリシーは常に見直しを行う。

情報セキュリティ教育

当社の事業を運営するに当たり、各取引先様や当社自身の機密情報あるいは、社員の個人情報等、外部に漏洩させてはいけない様々な情報が多く存在しております。基本的に情報漏洩等は、社員の機密管理に対する意識低下に起因する事が大きいと考えられており、この為、情報漏洩防止に向け社員に対し機密管理に対する教育を定期的に実施しております。教育方法としては、セキュリティポリシーの主な内容をまとめた「情報管理10ケ条」の読み合わせ及び、徹底という形で実施しております。

情報管理10か条

「情報管理10か条」

safety and health law

安全衛生

当社で働く全ての人が、安全で快適な職場環境を構築いたします。

安全衛生方針

安全衛生活動は、企業経営の基盤であり、我が社で働く人及び地域社会の安全・健康に及ぼす影響を最小限となるよう企業活動の安全衛生を管理し、自負できる職場を目指します。

1．安全衛生関係法令及び社内基準を遵守し、より一層の安全衛生管理に努めます。

2．職場の危険有害要因の明確化と対策の優先度を定めるリスクアセスメントを実施し、“災害ゼロ”から“危険ゼロ”の安全で快適な職場へ進化させます。

3．全社員のみならず、協力メーカー/関係者の協力の下にコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行していきます。

4．従業員の教育及び啓蒙活動を通じて、安全意識の高揚に努めます。

5．安全衛生活動の実行に当たっては、適切な経営資源を投入し、効果的な改善を継続的に実施します。

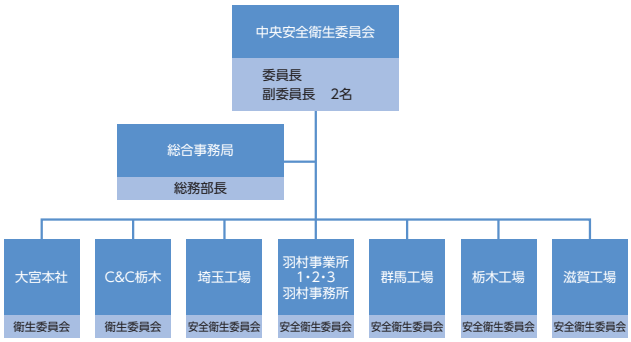
従業員安全講習

毎年7月に「安全大会」を開催し、労働災害、交通事故等の災害に対して過去の災害事象の振り返りを行うと共に、災害・事故ゼロに向けて意識向上を図っております。

また、従業員が災害・事故防止への意識を常に維持しながら日々の作業にあたれるよう、他拠点の事故について情報の共有、同業他社の事故事例の情報共有を図っております。

受講風景

■ 中央安全衛生委員会組織図



避難訓練

火災、大規模地震に備え、日頃から防災意識を高め、また、従業員の身体、生命を守るため、各拠点において避難訓練を定期的に実施しております。地域の消防署と連携し、初期消火、通報、避難の一通りの訓練を実施し、いざという時に備えております。合わせて、AEDによる救命訓練も実施すると共に、非常用食料も備蓄し帰宅困難者に対して備えをしております。

訓練の様子

フォークリフト運転の安全取り組み

当社の工場構内では、製品の運搬のために多くのフォークリフトを使用しています。フォークリフトの事故は、万が一発生した場合には、死亡事故へとつながりかねません。そこで当社では、フォークリフト運転技能講習修了証を保有している作業者に対して、更に独自の社内運転許可制度を取り入れ、毎年試験を行い、安全運転の技能・意識を高めて作業に当れるように努めています。また、毎日の始業点検時にはボディのキズ点検を行うことにより、安全運転への意識付けを図っています。

フォークリフト運転の安全取組み

quality

品質

お客様のニーズを満足する信頼される製品を継続的に提供します。

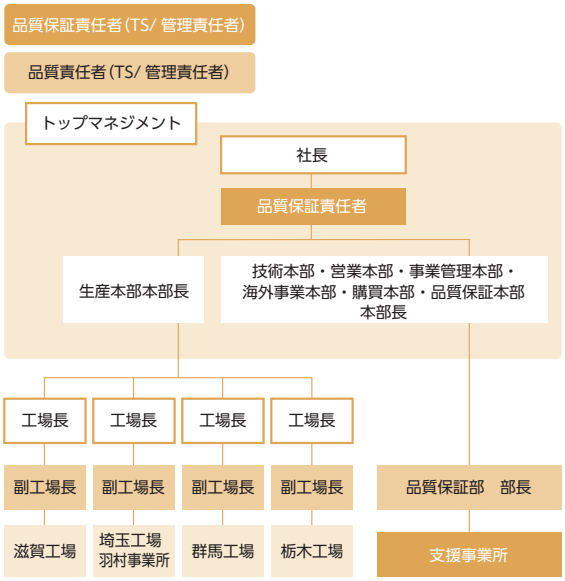
品質方針

品質至上を経営の基軸として、お客様に感動製品を創造し提供する。

品質保証体制

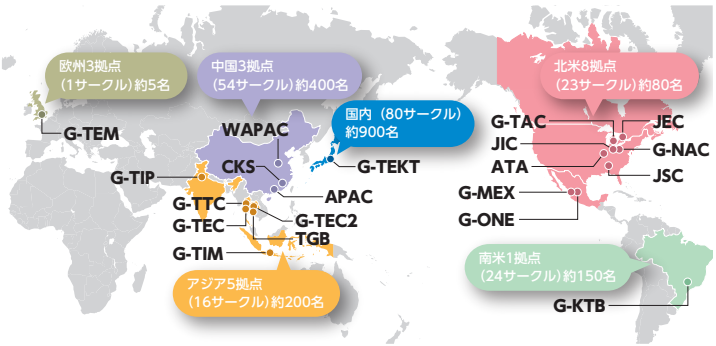
顧客を満足させる高品質な製品を作り上げる為に、G-TEKT全19拠点での「1保証体制1マニュアル」を確立しています。また各拠点が、このルールに適合することで拠点間の品質保証システムの水平展開を図ることができ、生産活動だけでなく物流まで含めた品質保証に貢献できます。

■ ISO/TS16949の国際規格に基づいた品質マネジメントシステム



G-TEKT サークル

当社グループでは教育を目的とした小集団活動を自主的かつ積極的に行い、継続的に製品・サービス・仕事などの質の管理・改善を行っております。



G-TEKTサークル世界大会

毎年秋に全世界から選抜されたサークルが日本に一堂に会したG-TEKTサークル世界大会を開催しています。全世界で改善事例を共有し、国際的な人材育成を行っています。

ISO/TS16949 認証取得

ISO/TS16949の要求事項を基にした品質マネジメントシステムを構築し、お客様の要求品質に応えた製品を提供できる体制を構築しております。また、G-TEKT発足以後、全世界拠点にてISO/TS16949規格での品質マネジメントシステムの構築を推進し、2015年度に新たに2拠点の取得を完了し現時点16拠点の取得を完了しております。

品質向上の取り組み

■ 品質保証システム

1 戦略
・お客様の新機種情報を収集し、新技術や品質保証等の面で計画立案をします。
・お客様よりいただいた新機種情報に対し改良案やコスト削減案をご提案し、お客様と共に製品を「共創」します。

2 企画
・顧客要件に基づいた設備の投資・設計・生産性・新技術などを検討し、安くて良い製品を作るため社内で評価を行います。

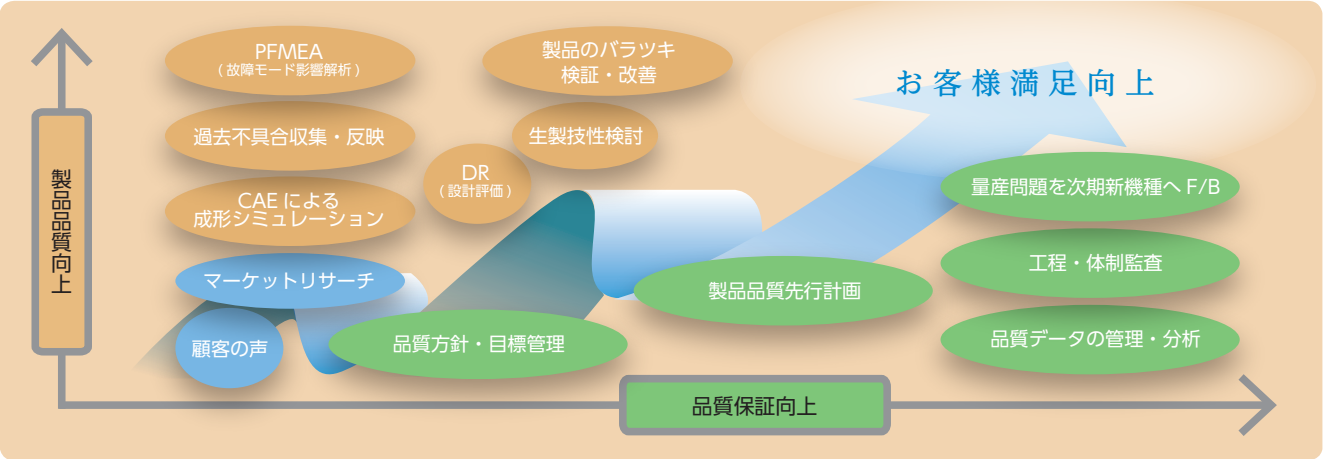
3 設計
・設備や品質など各部門の管理計画の作成・準備を行い、企画段階のことが行われているか設計審査を行います。

4 生産準備
・企画構想に基づいた金型・溶接ラインを作り、試作品を製作して専用設備の準備・検証・評価を行います。1点ずつ検証し、製品の確からしさ検証を行います。

5 量産
・企画段階の目標値が量産で達成できたかどうか、品質・コスト・デリバリーの面から評価を行います。
・製品の品質確認、設備のメンテナンスや点検を確実に実施します。

6 品質情報
・品質関連情報を集約し品質改善につなげます。また、次機種に反映するため企画段階へフィードバックを行い未然防止に役立てます。

お客様満足向上の方針



購買・CSR 調達方針

調達先の法令遵守や環境配慮、さらに人権や労働環境への取り組み状況について取引の基準とするCSR調達に対する意識を高め、法令を遵守し環境に配慮したモノづくりの考え方をサプライヤーの皆様にも共有していただく。

活 動 指 針

1. CSR調達方針およびガイドラインの策定
2. 調達先の現状調査の実施
3. 調達先への是正・改善措置の提案及び実施
4. 調達先監査の実施

「ジーテクト サプライヤー CSR ガイドライン」の発行

CSR活動に当たっては、環境問題にとどまらず法令遵守・人権尊重・労働安全・品質などサプライチェーン全体の活動が重要となっております。これまでもサプライヤーの皆様とともに取り組んで参りましたが、ジーテクトのCSRの考えをより鮮明にし、より深く共有いただく為に、2016年4月に「ジーテクトサプライヤーCSRガイドライン」を策定いたしました。今後もサプライチェーンの課題の把握とその解決を目指し、サプライチェーンの強化に努めます。

新春取引先懇親会の様子

取引先とのコミュニケーション

チームジーテクトとして厳しい環境を勝ち抜くために、お取引先との情報共有の機会を常に設ける事により、コスト競争力・安全・品質の強化に取り組んでおります。またお取引先とのコミュニケーションの一環として、毎年取引先懇親会を開催し、ジーテクトの方針説明を実施いたしております。

従業員の VOICE

日本と海外をつなぐ 品質保証の架け橋として

品質保証本部　品質保証部　品質保証課　笹江　有未

入社時より品質保証部に配属され、得意な英語を生かし主に海外拠点とのやりとりを担っています。全世界の品質情報を迅速に把握し、リアルタイムに各拠点へ情報共有をしており、その情報を毎月、拠点毎に集計することにより、次機種の企画段階へフィードバックする業務も行っています。また、品質関係業務やQCサークル等の教育資料も作成し、国内・海外全拠点へ毎月展開しています。海外拠点とのコミュニケーションは時差等もあり難しいところもありますが、日本と海外の品質保証と改善に繋がる架け橋となる様、日々邁進しています。

human rights/labor practices

人権・労働

社是にある「人間性尊重」の理念を全従業員のみならず、仕事を共に進める人々や企業との関係にも適用し、公平・公正で働きがいのある職場づくりに努めます。

人材育成基本方針

① 目指す人材像に向けて社員の能力開発を図り、世界トップ水準の車体部品とトランスミッションの専門メーカーとして相応しい人材を育成する。

② 社員は自ら学び、自ら考える意欲と姿勢を持ち、会社は社員一人ひとりの成長を積極的にサポートする。

③ 階層教育と職場でのOJT及びOFF-JTとしての研修及び自己啓発からなる部門教育に加え制度化したジョブローテーションにより「学ぶ風土」「育てる風土」を醸成し、人材育成重視の文化を定着させる。

人材育成制度

ジーテクトでは、「次の時代に価値を生み出す人材の育成」を念頭に生産部門と技術部門で実施する新入社員研修、配属部門で実施するOJTとOFF-JTに加え、各段階別に実施する階層別研修、そしてジーテクトの特徴であるグローバル基礎教育からなる人材育成制度を設けております。当制度では計画的に配置ローテーションも行い、自動車車体部品生産の全体像を理解しながら専門知識の習得を行う事で、全体最適なものづくりが出来る人材を育成します。

グローバル基礎教育（海外研修）

ジーテクトは、海外現地生産を基本とし11ヶ国に拠点を設け、グローバルでのものづくりを行っております。このようなビジネス環境下で活躍できる人材を育てる為、ジーテクトでは早い段階でグローバル感覚を養う海外研修制度を設けています。当制度では、語学学校での語学留学研修と海外拠点での実務研修を組み合わせる事で、言語、文化、商習慣を学び、さらに海外拠点の現地スタッフとの和を広げ、グローバルに活躍できる土台をつくります。

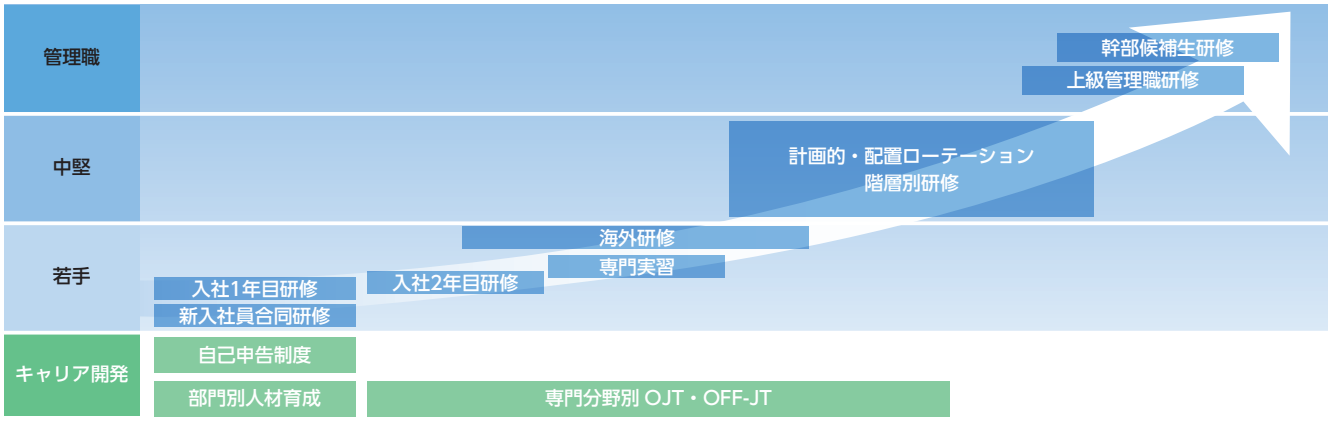
ダイバーシティ

当社では、ダイバーシティはイノベーションの源泉であると考え、性別・国籍・職歴・年齢・性格・価値観など、外面あるいは内面の違いを「その人がもつ個性」と捉え、それぞれの個性を尊重していくことが重要としています。今後も多様な力を結集し、グローバル市場の多様なお客様のニーズに応えていきます。

女性活躍推進法に基づく行動計画

「真のグローバル企業」をめざすべく、企業を支える人領域の強化を重要な経営課題として位置づけて取り組んでいます。日本においては女性活躍を重点課題の一つと捉え、「女性採用強化」「育成強化」「継続就業・働き方改革」を取組みの柱として取り組んでいます。

■ 人材育成プログラム



Environmental

環境

地球環境の保全を最優先とし、低炭素社会の実現を目指します。

環境理念

当社は、地球環境及び地域環境の保全を最優先課題と捉え、緑あふれる地球を未来に残す責任ある一員として、「地球は我等の共通の広場なり」をスローガンに、環境に配慮した事業活動と地球環境保全の両立を目指します。

環境方針

1. あらゆる事業活動から生ずる環境側面への影響評価を行い、自主的な改善計画を策定し、積極的な環境保全に努めます。
2. 関連する環境法規制、その他の要求事項を遵守し、自主管理基準を設定し、環境汚染の未然防止に努めます。
3. 環境目的・目標・実施計画を設定し、継続的な改善を行うことにより環境への負荷を軽減し、環境と調和する事業活動を目指します。また、それらは必要に応じて見直します。
4. 環境教育や啓蒙活動を実施し、全従業員及び当社で働く全ての人への環境方針の理解と情報の周知をします。
5. 環境情報は社外へ開示いたします。また地域や社会との交流を図り、環境保全活動に積極的に協力します。

従業員の VOICE

地球環境に配慮した、サステナブルな物づくり

生産本部　環境管理課　**野間　健太郎**

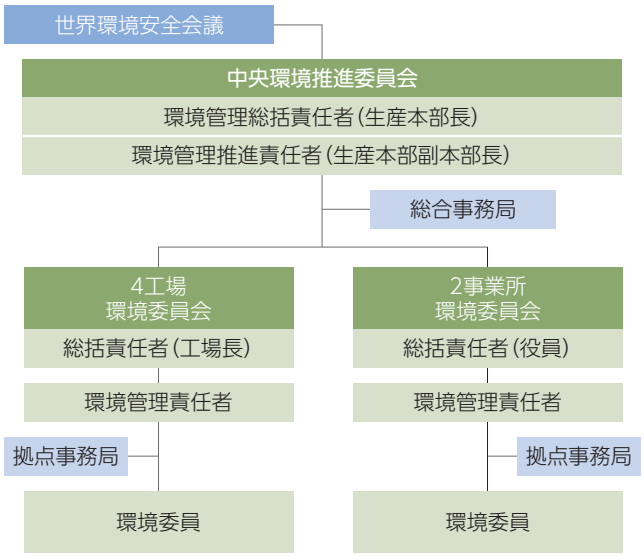
私たちがこの地球上で暮らして行く上で、食料や水、気候の安定など、多様な生物が係り合う生態系から得ることができる恵みのことを「生態系サービス」といいます。物づくり（事業活動）をして行く上でも、この生態系サービスを利用している訳ですが、これを将来に渡って利用出来る持続可能な社会を目指し、私たちは日々の生産活動を通して環境活動に取り組んでいます。

オールジーテクトでの環境マネジメント体制

ジーテクトでは、地球環境問題を企業が取り組む最優先課題として考え、国内では、1998年からISO14001環境マネジメントシステム(EMS)の認証取得を進めて来ました。各工場はISO14001EMSの環境委員会を単位として、各工場長が環境管理総括責任者を兼任し、環境のコンプライアンスや改善活動を継続的に進めています。これに本社とC&C栃木の2事業所を加え、これらの上位組織として中央環境推進委員会を設置し、全社的な地球環境改善活動に関する事項を統括しています。

また、2014年6月より「世界環境安全会議」を発足させ定期開催し、各海外地域本部長を責任者として、グローバル全体における環境マネジメントの強化と情報共有に努めています。

ジーテクト国内環境管理体制



ISO14001認証取得状況

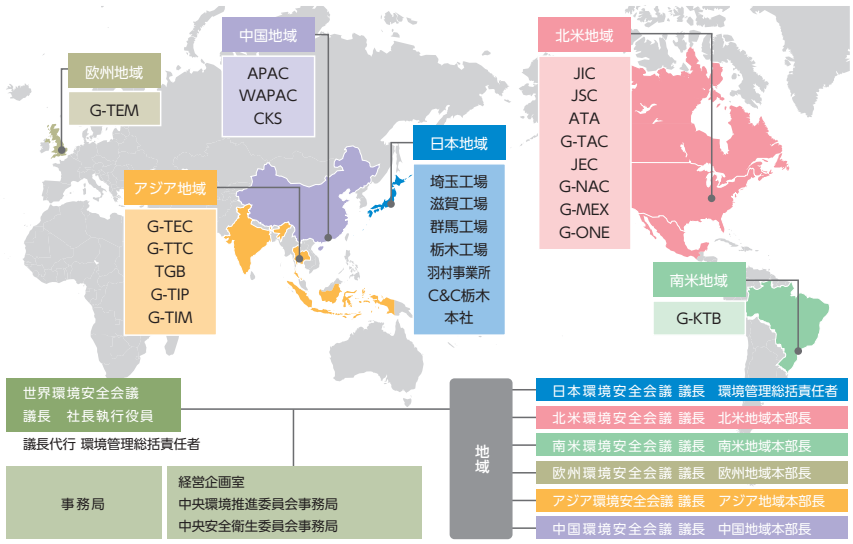
国内サイト	取得年月日
栃木工場	1998年12月
埼玉工場 羽村事業所1・2 羽村事務所	1999年 4月
滋賀工場	1999年 4月
群馬工場	2004年12月

世界環境安全会議の様子

ISO14001登録証

埼玉工場
埼玉工場羽村事業所1・2
羽村事務所

世界環境安全会議



G-TEKT環境ロードマップ

環境基本理念：「地球は我等の共通の広場なり」の実現へ

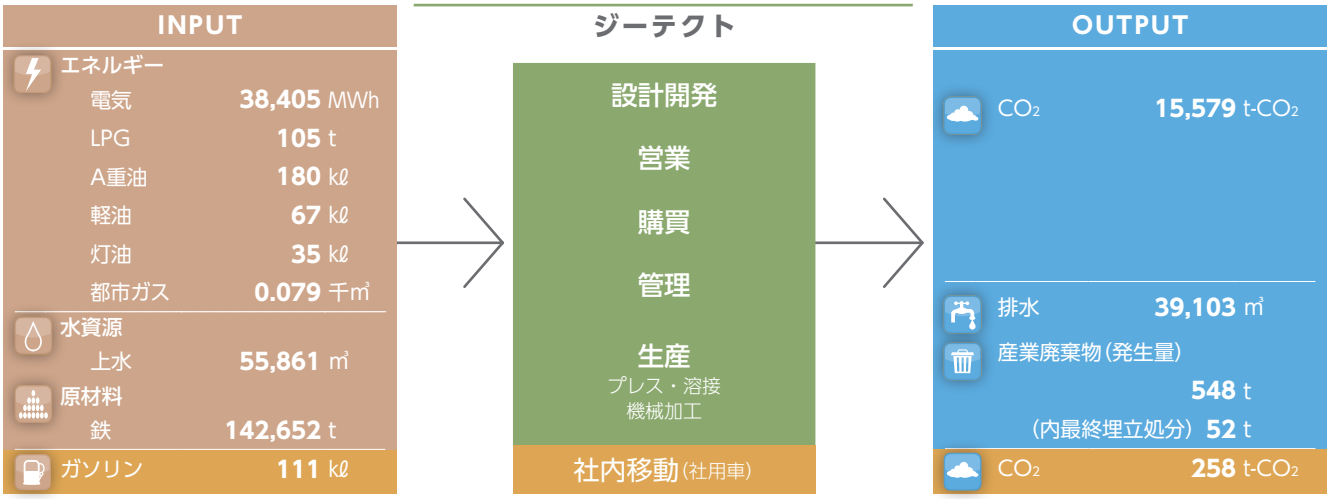
環境目的を定め、目標に向けた環境活動計画に基づき、継続的改善活動を推進しています。

【2020 年 Vision G4-20】
Green（環境・安全・社会貢献）
環境 / 安全に配慮した事業展開
【全社重点目標】
環境負荷と環境リスクの低減

【各事業所の環境目的】
1．水質汚濁の防止
2．工場騒音・振動の防止
3．エネルギー消費量の削減
4．廃棄物の低減 (3R)
5．地域社会貢献

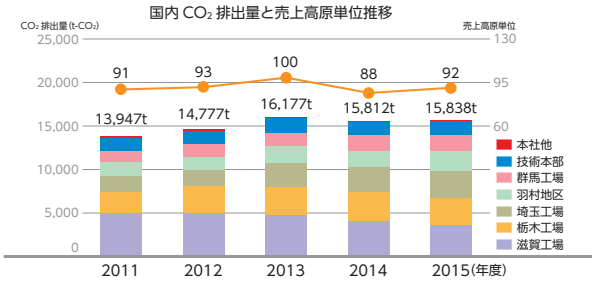
領域	内容	計画 / 実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度
生産	温室効果ガス(GHG)排出 売上高原単位の低減	目標	1%改善（'13年比）	2%改善（'13年比）	3%改善（'13年比）
		実績	12.5%改善	8.1%改善	ー
		評価	◎	◎	ー
	グローバル環境管理体制強化	目標	・グローバルでの削減展開 ・環境データ精度UP	削減展開	継続
		実績	・世界環境安全会議発足 ・海外環境データシステム構築準備	・世界環境安全会議にて 環境改善事例の共有化	ー
		評価	◎	◎	ー
環境 マネジメント	騒音振動、水質汚濁、大気汚染公害、廃棄物処理等の環境問題を発生させない	目標	環境法令順守 社外流出、苦情件数ゼロ	環境法令順守 社外流出、苦情件数ゼロ	継続
		実績	環境問題ゼロ	環境問題ゼロ	ー
		評価	◎	◎	ー
	ISO14001 EMS 2015 改訂版への移行	目標	準備	システム再構築	システム移行
		実績	情報収集	システム文書見直し	ー
		評価	◎	◎	ー
企業活動	生物多様性への対応	目標	取り組み指針の策定 準備及び活動展開	活動展開	継続
		実績	・ガイドライン発行 ・活動開始	森林づくり活動、他の実施	ー
		評価	◎	◎	ー
	社会への発信	目標	環境(CSR)レポート 発行への準備	CSR報告書2015の発行	継続
		実績	情報収集及び準備	2015年6月初版発行済み	ー
		評価	◎	◎	ー

マテリアルフロー（※2015年度実績値）



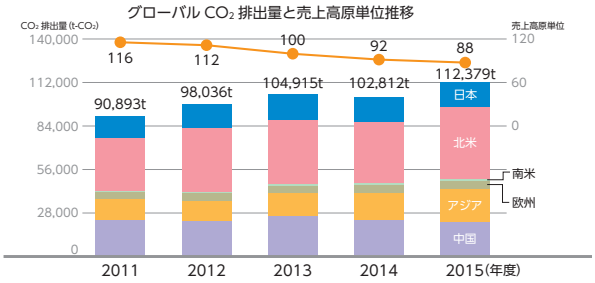
温室効果ガスの低減(国内)

国内でのCO_2排出量は、2013年度比で原単位(売上高当り)毎年1%の削減を目標に展開し、2015年度は国内景気の足踏み等により販売が低迷し生産台数が減少した影響から原単位は2014年度から4ポイント増の8.1%の削減となり、CO_2排出量は26tの増加となりました。



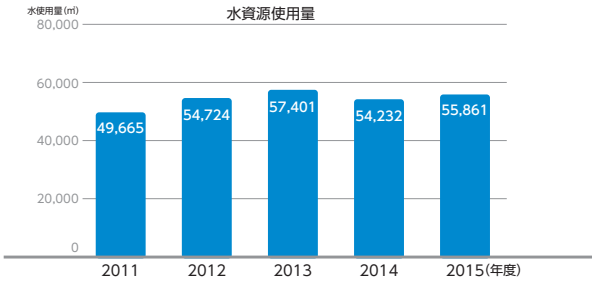
温室効果ガスの低減(グローバル)

グローバルにおけるCO_2排出量は、2013年度を基準に原単位(売上高当り)で毎年1%の削減を目標に展開を始めました。2015年度は北米・アジアの増産や非量産売上げが増加し、また為替の影響もあった事から原単位は12.1%の削減となり、CO_2排出量は9,567tの増加となりました。



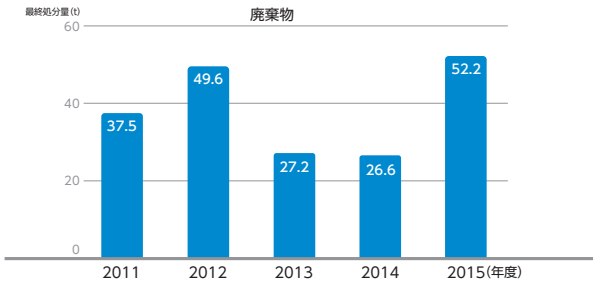
水資源使用量の低減

貴重な水資源の使用量低減活動から間接的に給水場のポンプ使用エネルギーの削減につなげています。また見える化により、構内の水道管水漏れ箇所の早期発見などにも役立てています。



廃棄物の低減

不要物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)による廃棄物の低減を推進しています。



注) 数値は中間処理前の引き取り量

グリーン調達の取り組み

サプライチェーン全体での製造過程における環境負荷の低減をめざすグローバルなモノづくりを推進し、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えております。グリーン調達は、この活動の一環として、積極的に環境保全活動に取り組んでいるサプライヤーの皆様から、化学物質の適正使用、生態系の保全、環境負荷のより少ないプロセスを経て製品を調達することを目的として取り組んでいます。

環境改善取り組み

エアコンプレッサーの台数制御運転による消費電力の削減（日本）

製造現場で使用しているプレス機械や溶接治具、エア工具等を動かすには、圧縮空気が必要なため、エアコンプレッサーで圧縮空気を作っています。このエアコンプレッサーの消費電力を削減するため、埼玉工場では、必要に応じて圧縮機の運転台数を制御するインバーターエアコンプレッサー150kW型を3機採用して連動制御運転させています。

1機に2台の圧縮機が搭載されているインバーターエアコンプレッサー

工場天井・壁面の明り取り窓による照明点灯時間の削減（ブラジル）

ブラジルのG-KTBでは、工場の天井と壁面に明り取り窓を多く採用し、太陽が出ている昼間には天井灯を消しても生産に影響の出ない照度を保つことにより、天井照明の点灯時間を削減して消費電力の削減へとつなげています。

工場天井と壁面の明り取り窓

地球温暖化対策

地球温暖化対策取り組みの一つとして、CO_2排出量を削減できる発電という観点から、工場の屋根上にソーラーパネルを設置し、発電事業を2014年から行っています。サブ効果として、屋根からの太陽熱を遮れるため、工場の室内温度上昇が抑えられ夏場の空調機器の負荷低減にもつながっています。

埼玉工場太陽光発電所	群馬工場太陽光発電所	滋賀工場太陽光発電所
【設備概要】	【設備概要】	【設備概要】
太陽電池容量 1,605kW SHARP製245W×6,552枚	太陽電池容量 1,306kW SHARP製245W×3,920枚 SHARP製250W×1,386枚	太陽電池容量 602kW SHARP製245W×2,408枚
最大発電出力 1,500kW PCS：TMEIC製500kW×3台	最大発電出力 1,000kW PCS：TMEIC製500kW×2台	最大発電出力 500kW PCS：TMEIC製500kW×1台

太陽光発電	系統連系開始日	年間発電量実績	年間CO_2換算量
埼玉工場	2014年3月31日～	1,957,260 kWh	988 t-CO_2
群馬工場	2014年4月25日～	1,571,059 kWh	793 t-CO_2
滋賀工場	2014年12月5日～	777,823 kWh	413 t-CO_2

ジーテクトの生物多様性の取り組み

ジーテクトでは、最重要課題である地球環境保全の中で、自社の事業活動が影響を及ぼす可能性のある「生物多様性」について、2014年度より「G-TEKT生物多様性ガイドライン」を定め、更なる取り組みに着手し始めました。

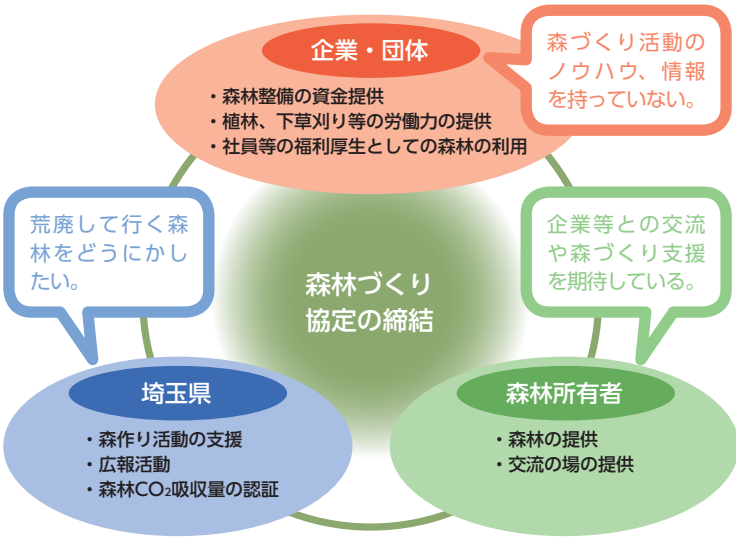
G-TEKT生物多様性ガイドライン

G-TEKTは、「G-TEKT環境理念」における「地球環境保全」の重要な取り組み課題として「生物多様性の保全及び持続可能な利用」を認識し、事業活動との両立を図っていきます。

重点取り組み

1. **環境先進技術の追求**
   業界TOPの環境負荷の低い商品開発と量産化により、生物多様性の保全に貢献していきます。
2. **事業活動における取り組み**
   生産効率向上の追求により環境負荷を低減し、生物多様性に及ぼす影響の低減及び持続可能な利用に努めます。
3. **地域社会とのコミュニケーション**
   地域社会と連携した環境保全活動並びに社会貢献活動に積極的に協力し、地域社会との交流を図っていきます。

ジーテクトの森林(もり)づくり



埼玉県「企業の森林づくり」の仕組み

ジーテクトでは、生物多様性取り組みの一環として、 2014年から「企業の森林づくり」活動を開始しました。

「企業の森林づくり」とは、森林づくり活動の場所を提供する市町村等および活動を支援する県、森林づくり活動を行う企業・団体の3者が協定を結び、協力して森林づくりを行う取り組みです。

私たちジーテクトは、『未来の子どもたちに、緑あふれる地球を引き継いでいく』をスローガンに、この取り組みに参加しています。

弓立山山頂付近に設置している、埼玉県産木材を使用した看板

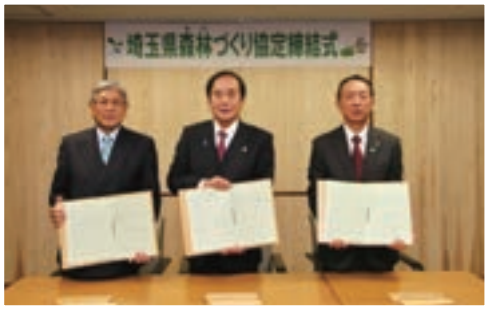
森林づくり協定の締結

● **滋賀工場**

2014年12月10日に「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を滋賀県、大野山林財産区管理会と締結しました。

● **埼玉工場・羽村地区・本社・群馬工場**

2015年2月4日に「埼玉県森林づくり協定」を埼玉県、ときがわ町と締結しました。



埼玉県森林づくり協定締結式
写真左から、㈱ジーテクト 菊池会長(当時社長)、 埼玉県 上田知事、ときがわ町 関口町長

森林づくり活動

● **滋賀県甲賀市土山町大野山林にて**

2016年3月4日に「第2回琵琶湖森林パートナー」植林活動を実施しました。滋賀工場の社員15名が参加し、桜の苗木を10本植樹。また苗木だけではすぐに倒れてしまうので更に支柱を打ち込み、苗木を括り付ける作業を行いました。

「第2回琵琶湖森林パートナー」植林活動

● **埼玉県ときがわ町弓立山にて**

弓立山(標高420m)は2013年5月の森林火災により、約7.6haの焼失被害を受けました。この山を再生すべく、2015年4月25日に「第1回ジーテクトの森林づくり」活動を開始しました。埼玉工場・羽村地区・本社・群馬工場の社員45名が参加し、ときがわ町の花「ミツバツツジ」や町の木「ヤマモミジ」等の広葉樹80本の植林を行いました。

また、9月26日には「第2回ジーテクトの森林づくり」活動を実施し、社員20名にて、苗木周辺の背の高くなった雑草を長柄刈払鎌を使って人力で刈りました。(下刈り)

「第2回ジーテクトの森林づくり」下刈り活動

この他に、公益社団法人埼玉県農林公社と管理事業委託をしており、2015年度は合わせて、519本の植林実績となり、埼玉県より5.4t-CO_2の吸収量認証を受けています。

埼玉県森林CO_2吸収量認証制度

ミツバツツジの苗木

social contribution activities

社会貢献

地域社会との共生で次世代へ引き継げる社会貢献を継続します。

社会貢献活動

地域社会の皆様との交流を図り共に発展して行く事も大切な事と捉え、各事業所では様々な活動に取り組んでいます。

滋賀工場

工場周辺地域のクリーン作戦活動や、湖南甲賀地域の企業行政で行っている環境美化活動に参加しています。環境美化運動では青土ダムのブルーリバーパーク周辺の清掃活動を25名が参加し行いました。

滋賀工場：
『鮎河のさくらを守る会』活動

滋賀工場：
青土ダム周辺の美化活動

群馬工場

太田市内の中学生／各種団体／スバル関連企業等、総勢800名にて、太田市のシンボルとも言える新田義貞公ゆかりの金山清掃が行われ、群馬工場からも参加し、ゴミ拾いや雑草除去を行いました。

群馬工場：金山清掃活動

栃木工場

鬼怒川の河川敷公園清掃活動に36名が参加しゴミ拾いを行いました。また、さくら市の「お丸山公園再生基本計画」へ参画しており、業務委託での整備（下刈り年2回）を行っています。

栃木工場：鬼怒川河川敷清掃活動

埼玉工場・羽村事業所

羽村市双葉町内会と連携した「花いっぱい活動」への参加や、工場周辺道路の清掃、雑草抜き活動を行っています。

埼玉工場・羽村事業所：双葉町内会
「花いっぱい活動」

C＆C栃木

鬼怒川・小貝川クリーン活動や地域イベント「情報の森さくらフェスティバル」に参加いたしました。また、C＆C栃木として献血に協力しております。

C＆C栃木：鬼怒川・小貝川クリーン活動

海外での取り組み

当社では、国内だけでなく、北米・欧州・アジア・中国・南米の各地域で、環境安全会議を実施し、環境保全活動に取り組んでいます。また、地域社会への貢献活動も実施しています。北米では、エネルギー低減施策や地域貢献活動を積極的に実施しています。欧州では、就職支援活動・福祉貢献活動・地域環境貢献活動を実施しています。中国では、省エネ・CO_2削減の取り組みを実施すると共に、社会貢献の取り組みを実施しています。南米でも、環境改善活動を積極的に推進すると共に、児童福祉施設への寄付を始めとした社会福祉活動を実施しています。

北米

グリーン運動

ファミリーイベント

地域からの表彰

欧州

チャリティーケーキ販売

ゴミ分別の促進

地域の公共設備の修理
（郵便ポスト）

中国

養老院を訪問

地域安全生産モデル
企業としての活動

植樹活動を実施

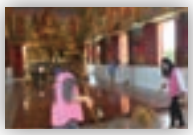
南米

市役所への衣料寄付

環境ポスター
コンテスト開催

地元の川の
環境改善活動

アジア



寺院の清掃活動

グリーン活動

近隣4村への寄付活動

third party an opportunity to submit

第三者意見

麗澤大学経済学部・大学院経済研究科教授
麗澤大学企業倫理研究センター副センター長
博士（経営学）

倍　和博（ばい かずひろ）

2001年麗澤大学に奉職、現在に至る。日本経営会計学会理事長、ICBM（International Conference on Business Management）Vice-President、経営関連学会評議会評議員他。2008年豪ボンド大学経営学部客員教授。著書に『CSR会計への展望』森山書店、『CSRマネジメントコントロール』『永続企業の条件：環境変化に打ち克つ5原則』以上麗澤大学出版会など多数。

株式会社ジーテクト（以下、同社）は、持続可能な社会の実現を目指して、中長期ビジョンである「2020年Vision G4-20」に基づく取り組みを「CSR報告書」として整理されています。CSR活動の定量化を試みるCSR会計と永続企業経営を促進する立場から、以下に第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点

今回の報告書で評価できる点は、同社の事業の中核を成す車体部品・トランスミッション部品の製造から販売に関わる一連の活動とCSR活動との両立という難しい課題に積極的に取り組みはじめていることです。

まず特筆すべきは、中長期ビジョンである「2020年Vision G4-20」を念頭に置き、トップメッセージにおいて「3つの分野のイノベーション」（「技術イノベーション」「販売イノベーション」「人事イノベーション」）を掲げて同社独自のCSRテーマを導出し持続可能な社会の実現を目指す点です（p3-4）。第二に、「ジーテクトのCSR」（p6）においてステークホルダーとの関わりを意識しながら同社が取り組むべきCSR活動を特定することにより、ステークホルダーに対する基本姿勢を明らかにしようと試みる点です。第三に、「マテリアリティの特定」において、「社会課題の洗い出し」から「自社事業戦略からの課題」を明らかにし、「重要度の検討」と「マテリアリティ妥当性の確認」、さらには「マテリアリティの確認」へと進むプロセスを平易に解説している点です（p6-8）。

ここで紹介した同社の取り組みの最大の特徴は、CSRへの取り組みを階層的に捉えながら実践的な取り組みを展開している点であり、同社の目標である中長期ビジョンを段階的にブレークダウンしてCSRに関する全社的な共通認識を醸成しつつ課題に取り組む姿が投影されています（「従業員のVOICE」や「生物多様性の取り組み」（p23-24）などを参照）。これら実践的な取り組みは、ステークホルダーへの遡及効果が大いに期待できる内容であり、大いに評価すべき点です。加えて、財務だけでなく非財務情報を積極的に開示する同社の姿勢は、今後の統合報告の道標となり、CSR活動の推進レベルを着実に進める効果的な取り組みとなっている点を評価します。

今後の改善に期待する点

昨年度、改善に期待する点として、CSR活動をどのような体系に基づいて事業活動といかに連携するのかというマネジメントシステム確立の問題、さらに統合報告の作成に向けた課題を挙げさせていただきました。これらの課題については、今回の報告書から着実にその第一歩を踏み出していると判断します。

次なる改善に期待する点は、上記に示した個々のCSR活動の成果が同社の業績や業務改善にどのように結びつけたのか、両者の関係性をより分かりやすく、そして具体的に説明することです。同社のCSRに取り組む基本姿勢は、独自の視点でCSR活動を特定化し、具体的な活動を通してステークホルダーの理解を得るために行動に移す点にあります。そうした同社の行動力を基点としながら、ステークホルダーに対する遡及効果をこれまで以上に高める工夫（仕組み）を考えていただければ幸いです。中長期ビジョンで示された2020年に向け、より実効性の高いCSR推進体制の確立へと結びつけられることを祈念しております。

VOICE

第三者意見を受けて

経営企画室

倍先生、「ジーテクトCSR報告書2016」に対して、たいへん貴重なご意見とともに、弊社の取組みについて評価できる点、また今後の改善に期待する点などのご指摘を賜りありがとうございます。

本年の報告書では、CSR活動と事業活動との密接な連携の一例として、「ジーテクトのマテリアリティ特定のプロセス」を掲載させて頂きました。今後はご指摘いただきました様にCSR活動の成果がどのように業績や業務改善に結びついたのか、CSR活動と事業活動の関係性を具体的に説明するなど、ステークホルダーの皆様に当社の活動を少しでも理解いただけるように努めてまいります。

ひきつづき第三者の貴重な意見を尊重し、CSR活動を進めるとともに、必要と思われるデータを積極的に開示し、すべてのステークホルダーの皆様のご期待に沿える活動に進化させてまいります。

株式会社ジーテクト

〒330-0854　埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目11番地20
大宮JPビルディング18階
TEL：048-646-3400(代)
http://www.g-tekt.jp/

この冊子は環境保全のため、FSC®認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを
採用しています。